


2001年度日中医学協会共同研究等助成事業報告書

—学会開催に対する助成—

2001年 10月 10日

財団法人 日中医学協会
理事長 殿


 報告者氏名 南 裕子
 所属機関名 (社) 日本看護協会
 職 名 会 長
 所 在 地 〒 150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2
 電 話 03-3400-8331 内線

1. 学術会議の名称 第7回日中看護学会
 テ ー マ 変革期における日中看護の展望
 主 催 者 中華護理学会 代表者氏名 王 春 生
 期 間 2001年 9 月 12 日 ~ 9 月 14 日 開催地 中国珠海市
 参 加 者 数 日本側 84 名 中国側 約 100 名
 招聘・派遣の目的 標記学会の共催

2. 招聘・派遣研究者 人数 人 記入欄不足の場合は別紙を添付

氏 名	所 属 ・ 役 職	研 究 分 野

3. 主な滞在日程

滞在期間 自 2001年 9月 11日 至 2001年 9月 15日

月日	実施	時刻	備考
9月11日(火)	関西空港発 香港着 香港発 珠海着	10:00 12:50 16:00 17:10	JAL 701 便 フェリー利用
9月12日(水)	学会開会式 特別講演 全体会出席 懇親会	09:00 09:40 13:00 18:00	開会挨拶担当 講演「変革期における日本の看護の展望」
9月13日(木)	分科会出席 答礼会	09:00 18:00	
9月14日(金)	分科会出席 閉会式 香港へ移動	09:00 11:30 13:00	閉会挨拶担当
9月15日(土)	香港発 関西空港着	10:05 14:45	JAL 700 便

4. 学術会議報告書

別紙報告書作成要領に準じ、添付の用紙で成果・今後の課題等を報告して下さい。

抄録集・プログラム・写真等、学会に関する資料を添付して下さい。

5. 収支報告

交付を受けた金額 500,000 円

支出内訳（旅費・宿泊費・印刷費その他の科目別に記載、別紙可）領収書コピーを添付すること。

科目	金額	備考(用途・内訳)
旅行代金	337,150	南裕子会長分(内訳別紙①)
論文翻訳料	162,850	中国語論文和訳 総額 369,000 円の一部 (内訳別紙②、領収書に代えて振込明細書別紙③)

－ 日中医学協会助成事業 －
第7回日中看護学会出席報告

日 時：2001年9月12日（水）～14日（金）
場 所：中国広州珠海市
会 場：華駿大酒店会議室、珠海衛生学院講堂
主 催：中華護理学会
共 催：日本看護学会
テ ー マ：変革期における日中看護の展望
本 会 代 表：南裕子会長、小野光子理事
学 会 出 席 者：日本側 84名（含・代表者2名）、中国側 約100名
事 務 局：廣瀬佐和子学会部長、輪湖史子国際部長、内田恵美子中央ナースセンター業務部長

主要なプログラム

1) 開 会 式：中華護理学会 王春生理事長挨拶
日本看護協会 南裕子会長挨拶

2) 特別講演：

中華護理学会 王春生理事長 「変革期における中医看護の現状と考察」

【要旨】中国における病院看護管理体系、中国看護の基本的考え方と看護モデル、看護技術の発展、看護教育の状況を紹介し、看護と医学の不可分性に基づき、中医と西医の統合を図りながら、臓器別ではなく生命全体を診る看護の一層の展開が課題であることを示した。

日本看護協会 南裕子会長 「変革期における日本の看護の展望」

【要旨】21世紀は、グローバリゼーション（世界化）をさらに超えて、宇宙規模の視点が求められる時代である。看護職は、そこで生じる「人と人」「人と社会」の関係の変化を鋭敏に捉えながら、かつ一個人・一市民としての健全な理念と感覚に基づき、政策の場にも積極的に声を挙げながら、安全で質の高い看護の提供を目指す必要がある。

3) 全 体 会：

①看護倫理 首都医科大学附属宣武病院 楊 葦 「老年性痴呆における情緒障害の看護」
長野県看護大学 小西恵美子 「日本における看護倫理の教育」

②看護教育 西南女学院大学 小田正枝 「日本における看護教師の資質の発展への取り組み」
成都軍区総合病院 盧 敏 「専門看護婦の養成システム設立の研究」

③訪問看護 北京中医葯科大学附属東方病院 劉香弟 「糖尿病に対する中医健康教育の実施と効果」
日本看護協会 内田恵美子 「日本における高齢社会と訪問看護の評価」

④中日看護の関心事

神戸大学医学部附属病院 吉田智美 「専門看護師の実際的な活動」

中国協和医科大学中国協和病院 史冬雷 「婦長の選抜採用基準システムの確立」

4) 分 科 会：

① 日本側演題：33題、②中国側演題：33題（取り下げ・差し替えあり）

5) 交 歓 会

- ①中華護理学会主催懇親会：9月12日（水）夜—日本側の学会出席者全員招待される
- ②日本看護協会主催答礼会：9月13日（木）夜—中華護理学会関係者を11名招待

6) 閉会式：中華護理学会 王春生理事長挨拶、
日本看護協会 南裕子会長挨拶

7) 施設見学：中医医院（スケジュールの都合により、学会出席者一部が参加）

8) そ の 他：来年度以降の交流プログラム実施計画について相談

成果と今後の課題

1) 成果

1. 本学会ならびに相手国の看護に対する関心の高まり

- ① 日本側：一般演題の応募総数67題と、過去最高を数えた（うち33題採択）。また、参加者数（84名）は、1994年の北京大会に次いで最高であった。また、継続参加者もあり、両国の親善と情報交換に重要な役割を果たしている。
- ② 中国側：とくに、日本の専門看護師・認定看護師制度に対する関心が強く、その点について多々、質問や問い合わせが寄せられた。

2. 演題発表内容の充実

- ① 適切な研究デザインおよび科学的な調査研究手法に基づく発表が増えている。
- ② 日本で勉学・教育に従事する中国人看護職ならびに中国で看護活動（国際協力）に従事する日本人看護職による応募と発表が増えており、日頃の交流が生かされた学会内容となっている。

3. 両国の看護の共通点と相違点の明確化

全体会において、共通テーマのもとに両国から発表を行う形式にしたことによって、両国の看護における共通点と相違点が把握しやすく、相互理解を深めることができた。

2) 課題

1. 両国看護職による共同研究・共同企画の試み

現在は、日中両国の演題発表による情報交換を主目的として学会を開催しているが、今後は、両国の交流の上に立脚し、共同研究や共同企画を通じて両国の看護に貢献するプロダクトを産み出してゆくことが望まれる。

2. 日中両国の看護や保健の状況に関する基本的な情報の把握と広報

発表演題の背景となっている保健医療看護制度（教育も含めて）や社会状況を、参加者がより理解することによって、交流が深まると考えられる。現在、そうした理解は個々人の努力によっているが、今後、学会主催者・共催者がシステムティックに情報を取得・整理して、関係者に広報できるような仕組みの整備が望まれる。

3. 日中の看護の橋渡し役となる人材の確保と育成

日本において就学・就労経験のある中国人看護職および、中国において就学・就労経験のある日本陣看護職の名簿を作成し、今後の両国の交流促進をはかる上で貴重な人材として活用することが望まれる。

作成日：2001年10月5日